

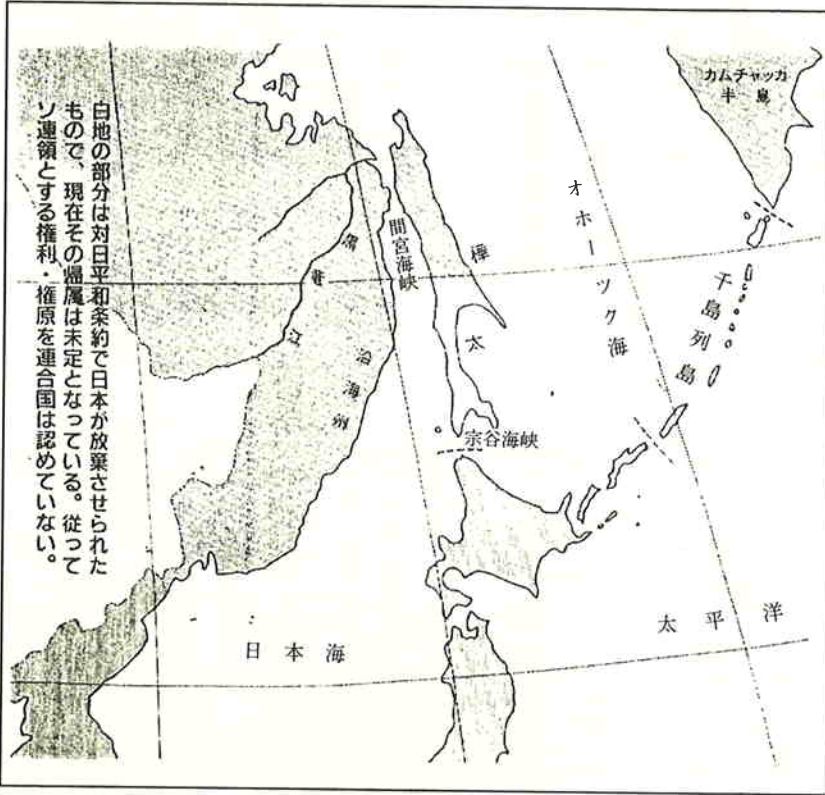
特集

座談会

平成元年3月5日
漁民センター

北方のふるさとを偲ぶ

— 千島・樺太引揚者 —



白地の部分是对日平和条約で日本が放棄させられたもので、現在その帰属は未定となっている。従ってソ連領とする権利・権原を連合国は認めていない。

北方のふるさとをあとに

サロマの地に根づいた人々

昭和20年8月9日、南樺太、千島は、突如、ソ連軍の侵攻にさらされる。米英との太平洋戦争終結のわずか一週間前の出来事であった。特に南樺太は明治38年、北緯

50度以南は日本領土として復帰、以来40年間の心血を注いだ近代都市として、40万人もの人々の豊かな生活の場であった。

人々は、敗戦という厳しい歴史の渦中に流され翻弄される。住み馴れた地からの強制引揚げ

が開始され、追われるがごとく北方のふるさとを後にしなければならなかった住民の悲惨さ、苦難はすでに戦後、40数年をへて、忘れ去られようとしている。

平成元年、昭和の時代が過ぎ去った今、こうした歴史的一幕にスポットをあてる。

それは、このサロマの地に根づいた、引揚者達の苦闘と、かがやかしい、人生勝利へのドラマでもある。



出席者

今地 トヨ・沖 尚八郎
加川 正一・加藤 ハナ
菊地 善蔵・佐藤吉太郎
佐藤喜市郎・杉森 勇
新田新一郎・野川 ヨシ
三津谷慶一・三津谷幸雄
諸岡 勝子(あいうえお順、敬称略)
司会 石原 善一

実盛会長挨拶

名簿を見ますと、随分とお目にかかっている方もおられます。

丁度、私も当時、この役場におりまして、皆さんが引揚げて来た昭和20年の前後の事は、承知いたしております。

その後、40数年のうちに、一度も、お目にかかっていない方もおられます。

本日は、こうした企画に、お忙しい中おいで頂き、ありがとうございます。座居ました。

こうした企画は、早くからしなければならぬと思っておりますが、なかなか実現しないのであります。申し訳なく思っております。

他町村の例を見ましても、引揚者の事は、あまり記録になく、佐呂間町史の中でも、二、三行書かれています。

本日に記録に残ってっているものは少なく、今後、こうした企画の中で、正確とは言わぬまでも記録に残したいと思っております。

今日は、始めてでもあり、充分とはいかないまでも皆さんのお話しを聞きとって、不足のものは今後、聞きとる等していきたいと思っております。

本日は、司会を皆さん御承知の石原さんをお願いして進めていただきますので、よろしく願います。

司会 大半の方は、御承知だと思いますが、石原と申します。

こういう催しで司会をすることは大層にむずかしいと思いましたが、務めさせて頂きますので宜しく御協力を、お願いいたします。

まず、最初に、それぞれの方の出身地等を中心に自己紹介をして頂きたいと思っております。

まず私から……

石原 出身は、樺太、恵須取郡

珍内村字るくし。

私は、そこで生まれまして昭和18

年までしかおりませんので、終戦時の混乱とか悲惨は判りませんが、その他の状況などは記憶があります。

まず、この中で、一番判っていない一人かと思っております。

沖 出身は樺太、恵須取郡 鵜城(うしろ)村です。

諸岡 私は千島です。国後郡 泊村字国後で親は漁師でした。

12才までいました。終戦後も3年いました。

強制引揚げで、樺太の真岡を回って、箱館に上陸しました。

杉森 千島の国後郡 留夜別オキツウシです。

おやじが漁師でしたので手伝ってました。大正3年、根室から6才で在島しました。そこに終戦までいました。

佐藤(吉) 樺太の大泊です。終戦の年は、私は班長をしていました。婦女子と男子は16才から60才まで、その婦女子の疎開は、大泊に来て、大泊から軍艦で海峡を渡りました。

疎開キップがなければ、北海道にいられないという事でしたが疎開キップを書く暇もなく大きな船(はしけ)に乗り三〇〇人そろって大泊にきました。

その時、大泊で、その状況を見て、樺太にはもうおれないという事で、家族や隣り近所の人と話しをして、発動機船にのって北海道に渡りました。

(住む所が無いので、サロマ湖を視察して、春は、かならずくるからと予約して一たん帰りました。昭和19年2月28日、サロマ湖に疎開して来ました。

新田 私は、樺太の豊北村です。仕事は薬店の小僧をしていましたが、終戦時、2年ぐらいは薬品会社に務めていました。

23年に引揚げて来ました。

三津谷(幸) 私は樺太の名好村で漁師でした。終戦時は、軍隊に



車ごと徴用されていました。21才までいました。

菊地 生れは、この富武士です。13才の時に樺太に行き、それから、真岡郡 蘭泊と真岡の間の本古円で農業をしていました。昭和22年に引揚げて来ました。29才でした。

加川 樺太の中間で、汽車のそれより北にはないという珍内という所で生まれました。幅が七里しかないという、一番、せまい所です。昭和23年の時に18才で引揚げて常呂に來ています。漁師でした。

今地 浜佐呂間生れですが、父さんと一緒に昭和13年に樺太の落合の内淵という炭坑に10年いました。最後の引揚船で、引揚げて来ました。20才ごろ渡り、30才ごろ引揚げて来たことになりました。

加藤 生れは秋田です。樺太の栄浜郡 のさむ という小さな漁師町にいました。

引揚げの時は、そこから西海岸の方に行き、汽車が、そこまでしかないという珍内に行き、丸太を積む船に乗って真岡に行き、真岡から引揚げ船に乗って箱館に上陸しました。

子供が沢山いたものですから、

その年の6月に生まれた子が風邪をひき、船に乗ってからも、病室にいて、上陸してからも、病院に入って何日かおりましたどこにも行く処もなく、根室に行きました。根室の役場ではかまど道具を一杯ならべてくれて、これだけのものが支給されるのだから、ここに居なさいといわれましたが、子供が沢山いるので、米のとれない所では、喰べる事にこまると思いい来た人と調べて、サロマに行くかという事で、サロマに向って来ました。

野川 樺太の大泊で生まれ、そこで結婚して、豊原で生活していました。豊原は、樺太の支庁のある一番良い所でした。私は、終戦前に北海道に來たので、引揚げ者ではなく疎開ということになりました。

父さんが兵隊に引っぱられ、生活にこまり、親が浜佐呂間で農家をしていたので、そこをたよって來たのです。34、5才の時でした。

三津谷(慶) 樺太の大泊 長浜村で漁師をしていて昭和21年、16才で、密航して北海道に渡りました。

佐藤(喜) 私は、吉太郎(佐藤)

の弟で、樺太の遠淵村出身です。家業は漁師ですが、小学校を出てから役場に入り、18才の年に樺太を出て満州に入営し終戦の年に北海道に帰りました。

その年に、兄達と、もう一度、樺太に密航しようとしたが失敗しました。

家内は、旧姓、木村と言いますが、樺太では、同じ村に居ました。自分達で小船をしたてて、密航して來た経験をもっています。その後、家内の兄貴は、再度、樺太めざして密航して行方不明になってしまいました。

遭難したのか、ソ連兵に撃たれたのか、はつきりしません。

司会 一度、北海道に帰って來たのに、又、樺太に行こうとした訳ですか。何故ですか？

佐藤(喜) ぼくらは復員でしたから内地から北海道に來て、それから、兄貴達が一回引揚げただけで、発動機を取ってくる、俺もとりに行くという事で、その密航船に乗り込んだのですが船の故障で失敗してしまつたのです。

司会 一応、一通り自己紹介をしていただいたのですが、私、先ほど、言い忘れたのですが、もう一度、くわしく言いますと、

私の祖父は、明治41年に樺太に渡りました。明治38年に日本のものになった訳ですから、その2、3年あとになります。

今は、いませませんが、私の父も私も、そこで生れました。

たまたま私は、自分の父親が、そういう判断をしたのだから、と思います。昭和18年8月に、もともとの出身地、富山県の方に、ぼくと昨年亡くなった祖母の二人だけを帰した訳です。

やはり、その当時、すでに日本が戦争に負けそうな情勢になっていたという事で、年寄りや、子供が何かあったら困ると、父達は残ったのですが、私達は本州に帰つたということです。

最終的に親達が引揚げて來たのは、昭和22年の8月で、富山の方に一年ぐらいいて、もともと仕事は漁師だったので、どこかで生計を立てようと、あちこち廻って、北海道も一廻りしたのですが、サロマ湖が何か一番よさそうだといいことで、ここに落ちついたということです。

司会 特別 指名しません。いろいろな思い出など記憶にのこることがありましたら話して下さい。

杉森 我々は、自分が戸主ではな

く、親が居て戸主でしたから、その戸主に従わなければならぬ訳で、国後に居ても、どうもうまくないと言つて、歩く兵隊も言つたんだ、砂までスタールの物だから、ここに居つたつて駄目だと言うんですよ。おやじが、お前達、まごまで口ステ言葉をおしえられてどうするんだ、3人いたのだけれど、そういう話しになつてしまった。俺、昔し、たらちねの船頭したことがあるけど、帆かけだつて北海道に行けない事はない、という話しになつてしまい、死んだつてどうだつて良いわと腹をきめてだ、爺様にまかせて、そしてところが、10月9日の日だ晩に、国後の方から根室に来るように風が吹いたので、それに帆掛けて、出てしまった。夜中に大きな地震のあつた時だつた。根室の人達は良く判つてゐるだろうけれど、船のいかりのロープですら、ブルブルふるえるほどだつた。

後には以外に穴ぐらみたいな所があつて、そこに行つたところが、その日から大シケになつて一週間の大シケにぶつかつてしまつた。やませ、というやつだ岸にアキアジが上るやら、ホタテが上がり、まアいい暮しが出来た。そういう事もあつた。そんな事に一回目になつてしまひ北海道に来る気持ちはなくなつてしまつた。爺様も、また帆掛ければ又、行けるべなんて言つていたけれど30なんぼにもなつて、ここで命おとすのかと思つたら厭だつた。そんな時に、遠淵という所を回つた奥に沼があるのだが、そこに、アキアジがのぼつて産卵にくる。それを買いに根室からやつて来た奴が、そんな所に居てもしかたがないから俺が、北海道につれていってやるという。12馬力の小さな船だつたが、米、三斗だつたか、……国後だから、米は前もつて根室支庁が、ちゃんとかぼつておいてくれていた。くぼつてくれた米を置いて来ては大変なので、どこに行つても生活出来ないと思つて、米だけは船にのせた。



人の言う、いわゆる脱出だ……10月16日に根室にやつて来た。苦勞と言えば苦勞だけど、80才まで生きたのだから、なんでもないことなのかも知れないが、厭だつたね。家内と子供3人でしよう。爺様と婆様、俺は船頭だからといばつてゐるけど、俺は船頭やつたことが無いから、帆かけ船だものね。発動機船なら何んでもないけれど。むこうでは漁業をやつていた。すけそうは10年、さし網もやつたし、ホタテ漁もして来た。おやじと、どこに落ちつこうかと歩いたけれど、ゲタバきで船

に乗れるのはサロマ湖しかないということになつた。
司会 ゲタバきでね(一同笑い)
杉森 俺の居た所は、国後の東海岸だつたけれど、船をおろすのに、パンツひとつにならなければ下ろせなかつた。
俺は、羅臼の「のつけ」に行こうと思つてゐただけれど、爺様がグダグダ言つて、ゲタはいて船にのれるサロマ湖が良いと4月にやつて来た。俺は6月に来た。
そんな事で、皆さんにお世話になつて43年たつた。80才にもなつたが、日本人は、どこに行つても良い人ばかり、悪い奴はダメイばかりなんだよ……(笑い)
司会 考えてみたら、今、70才、80才の方でも、終戦の当時、引揚げて来た方なら、自分の生まれた所よりも、サロマの方がよくなつてゐる人が大半なんですね。
杉森 あちらに居たのが32年、こちらに来てから43年にもなる。本当に永い。
サロマに来てから4人の子供が生まれましたからね。この子供は引揚者ではありませんからね。(笑い)

この人達（諸岡さん）は不運だ
ったと思う、樺太まで、つれて
行かれ、強制引揚げさせられた
何時までも、だはんこいて居る
人はそういうことになつたんだ。
（笑い）早いとこ、にげればそ
ういうことにならなかつたんだ。

諸岡 私達も、船は出したんです
が、夜、逃げる為に出たんです
けれど、うちの船に10そうほ
の船がつかつてしまつたんで
すよ。機械でも故障したのか、
全然、動かなくなつてしまつた
それで、そのまま岸にもどつて
もう一度、荷物をほどいて、そ
のまんまでいたら次の日、ロシ
アの兵隊さんが入つて来て、そ
れつきり船はとられてしまつて
逃げられなくなつてしまつたん
です。

板一枚も渡してもらえない状態
でしたから……

加川 諸岡さんは泊でしょう。

国後の泊村でしたね。
一番、近い所なんですよ、の
さつぷのつけの岬でしたら、
すぐ見える所ですね。

諸岡 そうです。それから、日本
の兵隊さんの乗つた船が2、3
そう来て、うちの父が根室まで
いって、子供を置いて、また国
後にもどつてきて帰れなくなり

それから3年間ロシア人と一緒
に暮して学校も隣りあわせみた
いにしていたんです。

加川 珍内は、そこまでしか船が
ないところですから、西海岸の人
達が、皆んな、リュックサック
をしょつて珍内まで集まつて来
た。鉄道はロスケの兵隊に、お
さえられているのでそこで、一
週間も二週間も野宿したのです
けれど、どうしても行けないも
のですから、又、リュックサッ
クをしょつて、子供の手を引っ
ぱつて、もどつて行つたのです
が、留守をしているうちに、在
住している朝鮮人の人に全部家
の中のものを持って行かれ、裸
になつてしまつた。

司会 あの頃の終戦時には、日本
が悪かつたのでしようが、朝鮮
の人達は、…ものすごかつた。

加川 いわゆる仕返しですよ。
逆にやられたのですよ。
だから、西海岸の人達は、ひど
い目に合つている。
そして日本の兵隊が北緯50度の
国境つたいに皆んな逃げて来た
兵隊はつかまるとシベリア送り
になるので、娘さんと結婚した。

司会 皆んな、警察官も兵隊も、
そうでしたね、身分をかくして
随分といたのですよ。

かばつてもらつたりしながら、
うまく帰つてくれた人もいた。
中には強制収容で、シベリアに
送られた人もいた。

加川 だから娘さんとカモフラ
ージュに結婚して、そういう人達
が身分をかくして海岸線に居た。

三津谷(慶) 私は、こちらに来て
からの事なんですけど、樺太で
生まれて、終戦20年までいて、
富武士に21年の春に来ました。
樺太での同級生がどうしたかな
という事を正して見ようと旭川
の人に聞いたところ、全国の樺
太連盟という所、名簿を発刊し
ていて、どこで生まれ、今、北
海道のサロマ湖で漁師をしてい
るといふことまで全部判るとい
うことで、樺太連盟に連絡をし
て見ました。

すると24年には一、二〇〇名、
30年には四、〇〇〇人、3回目
の35年には八、三〇〇名もの名
簿が出来ているといふことで、
その3回目を送ってもらいま
した。

それを見て、同級生と連絡を取
り合つたのですが、そんな事を
やっていて、連盟の樺連新聞を
送ってもらい、53年に、引揚者
の在外私有財産の保障問題が出
まして、私も、2、3人の人に

声をかけたところが、50名あま
りになり、書類を書いて送りま
した。

それで、三、八〇〇円の会費を
出してもらい、会員になつても
らつたのですが、2、3年のう
ちは良かったのですが、そのう
ち、会費も納めなくなり、納入
をお願いにいつても、親から息
子さんの代になつていたり、嫁
さんになつた人があり、まごの
時代になつたりして、樺太はど
こにあるのか、なんてことにな
り、なかなかうまく行きませ
んでした。

在外私有財産問題については、
諸外国の例ではすでに、一人一
〇〇万円も支払われて終つてい
るのに日本では見舞金をもらつ
たことがあるぐらいです。

今度は、千島、樺太の引揚者に
一人何10万円かの保障が国会な
どを通じて運動をしている。

そんな話をしてもらなかなかも
のにならなかつた。

私は樺太で16年暮しましたので
関心もあり、保障問題以外にも
大切なこともあるのだけども駄目
だった。

しかし、今も、樺連の新聞を通
し、本やら、写真を通じて連絡
し合つていますが、国会請願等

の運動に必要なカンバをお願いにいったのですが、2万円くれと言っても2万円は出ない、1万円にし次回もやろうというよいうなこともやっています。

司会 佐藤（吉）さんも在外財産の関係で何か前にやっておられたような気がするのですが。

佐藤（吉） その運動をしました。1才から20才までの人には1万円。最高60才で一八、〇〇〇円を10年払いの債券で支払うというものでした。家族の多いところでは、7〜8万円ということでした。

話しはかわりますが、私がサロマに来た訳は、知人だとか、親戚をたよって来たのではなくて遠淵という所とサロマ湖は、サシマとか、ナマコだとか、エビホタテが採れて、同じだ、とにかく北海道に渡ったら、サロマに行こうと思ってきました。

先程も言いましたが、おにしべつというところで一冬暮し、その時に、藤田さん、姉崎さんだとか中村さんとかがいて、佐藤さんの話を聞くとサロマに行くという。そういう事で、少くとも15戸ぐらいの戸数が欲しいという考えがあったものですから私が先に行ってサロマを調べて

来ると、この船木さんの所に寄ったところが、船木さんは、ここは、組合がないから駄目なんだという。昔は漁業会というのがあったけれど、今は、常呂組合になっているから駄目なんだとことわられ、役場に行つて話したところが、前の町長だった船木さんが、総務課長かで居てサロマは良い所だ、俺の兄貴が漁業をやっているから話して見なさいという。その船木さんにことわられたといつたらもう一度話してみれということ、再度、船木さんに話してみたら、そういう事ならくる



なら来なさいという事になりました。

おにしべつにもどり、藤田さんと石川さんの3人で4月28日にやって来たのです。

石川さんと藤田さんは船木さんの手伝いをして、私が支庁に行つたり札幌に行つて交渉したりしていました。

引揚者住宅も16戸だったか17戸だったか、浜佐呂間と富武士とトカロチの三ヶ所に建ててもらうことが出来ました。

又、何人かの人達と協力しあつて、佐呂間漁組の設立にもかわりあいました。

司会 こちらに來てからの話になりましたが、ここにおられるかも知りませんネ、ワツカで一年越冬しているのですよね。

前の町長の現役時代には良く樺太から、とんでもない連中が来たという話をされました。

まア、ようするに行く所がないから、どこでも暮さなければしようがないという事でワツカに何10戸ぐらい居たのでしょうか。2、30戸は居たんでしょうか。

加川 そんなには居なかつたと思う。

今地 私が、23年に引揚げて船で

ついた時、サロマに行くと言つたら、サロマには行くなといわれた。引揚者がすごい悪いことをするから……

司会 前の町長にはさんざん言われ本にまで書かれたりした。

今地 それはね、引揚者と言うより、その前に住んでいた人も悪かつたと思う。

司会 受け入れてくれないという事さ、皆んながあつたかい気持で受け入れてくれなかつた。

ほかの組合からは、さんざんいじめられるし、ようするに密漁だということ、もちろん漁業権だつて…… もともと有つた訳じゃないから。

加川 盗伐だといわれたよネ

司会 それは薪が必要だからやつたぐらいで、それを切つてどこかに売つたとかしたのではなかつたのですよね。ワツカに警察が来て皆んな没収した。網までも。

加川 常呂町の行政区域だったので、常呂から管理人が来たのを皆んなして、ぼつたつてやつたものさ。

司会 あの当時は、ともかくとんでもない日本人が来たという事だつた。

今地 船をおりたら、それを言わ

れたの、行ったら駄目だって。

受けが悪いからな、と言われた。

司会 船橋さんがそうだし、柴田

さんだとか、うちらだとか、ま

あ、ともかく悪かったことも悪

かったのかも知れませんが、当時

は受け入れてもらえなかった。

そのあと、樺太の引揚者とここ

に従来、居た人と床丹の場合は

もともと湧別の組合だったので

そこを抜けた人と一緒になって

今の佐呂間組合を設立した。

横山さん、もう亡くなってしま

ったけれど、あの方にはたいへ

んめんどろうを見てもらった。

杉森 ひとつ話題をかえて私が話

します。

苦労した話ではないのですが、

9月2日にロシアの船がやって

来た。わしらは裸になって、沖

に煙を上げてやって来る船があ

ると、平気で見ていたものだ。

近づいて来て、砂場めがけて上

陸して来た。そうとう岸までズ

ーとのり上げるが、しかし兵隊

が足を汚さず、上陸するという

訳にはいかない。腰から下ぐら

いは入らなければならぬ。

上陸してからは今度は、3つに

別れて、海岸線を歩くのと、家

の所を歩くのと、山の上を歩く

のとに別れる。

そして潜伏工作というのをやる

しかし、広い島だから3日も4

日もかかる。そのうち、樺太か

ら持って来たエストロの自動車

それにジープを持って来た。

自動車で、砂の上を走れるもの

ではないとたかをくくって見て

いたが、それが走るのだよ、4

輪駆動車だった訳だ。

チョットと砂に埋れば後をおつ

けると出る。そんな風に家宅捜

索を全部された。奴ら、随分と

恐がるものね、中さ、鉄抱むけ

る人が二人いると、一番、偉い

のが一人、靴をはいたまま、ガ

サガサとこっそり歩く、猫のし

のび歩きして、あれは撃たれる

のが厭なんでしょう。

そして赤い旗をあげている所は

赤化思想になっているというこ

とで、赤ければ腰巻でも良いの

だ。

今地 白い旗を上げているとやら

れるのだよね。

杉森 何もしてないとやられる

酒ないかとか、預金ないかとか

大騒ぎする。あいつら来る前に

隠しておいたから、良いような

ものの、もう、そういう者に負

けたのかと思うと情けなかった

樺太を取ったのが悪かったのだ。

明治37年38年の戦争で、そのし

つべがえしが北方領土にきたわ

けだ。

加川 樺太は日露戦争前は雑居地

だった。だから南樺太の北緯50

度、こちらは48度ですが、ロス

ケの教会の跡があった。日本人

が住んでも良かった。

日本の領土ではなかったが……

杉森 北緯50度からは、日本のも

のだと威張っていたから、それ

では千島を、とまった。

ラジオがあった。8月の15日前

に、モスクワ放送で日本人が言

っているのですが「37年、38年

の戦争は忘れもしないだろう、

その恨みは、今はらすべきだ：

「なんてやってきているのだ。

モスクワで、くそ、馬鹿にして

と思っていたが、あんたがわ

ず、そうなった。

司会 誰れもが、どうにも出来な

いという流れの中に居た訳です

ね。

杉森 8月15日、暑い日で、裸で

寝ていたら家宅捜索をされた。

目の黒い奴は、ねじり八巻とい

るのは良くないから、とれとい

う。

司会 あの、今、昭和から平成に

なったので言えるのですが、あ

の昭和天皇の終戦の放送は千島

や樺太で聞いていたのですか。

杉森 聞きました。12時に放送が

あるというので、家にラジオが

ありましたので「忍びがたきを

忍び、耐えがたきを耐え、無条

件降伏をしたって……」

今まで張切っていて、何かやろ

うと思っていたのが、もう何も

する気がしなくなりました。

加川 くやしかったよね。

今地 あの時のことは忘れられま

せん。今でも耳についているよ

うです。

司会 皆さん、千島や樺太に渡っ

て、俗に言えば、悪い言葉で言

えば、本当の意味で、そこで定

着して暮そうとしていた人も無

かった訳ではありませんが、半

数ぐらいいは、ひと旗あげようと

思う人が多かった。現実的には

そうだったと思う。

きれいな事ではすまされない話し

もあった。

杉森 うちの爺っこは、一、〇〇

〇円もうけたら帰るつもりで、

兄弟3人でおったそうですが、

一、〇〇〇円もうけた時もあつ

たそうだけど、めんどろう臭いか

ら住むという事になってしまつ

た。石原さんは、俺達と、違っ

のだったか。

司会 うちの爺さんは、日本の領

土となって、2・3年後に行っ

ている訳で、その時は富山にい
つても大変だということ、一
旗上げたら、という気持はあつ
た。

杉森 一、〇〇〇円あつたら良い
という気持だった。

司会 いや当時の一、〇〇〇円と
いうのは、今の二、〇〇〇、三、
〇〇〇万円ぐらの価があつた。

杉森 映画で観ても千両箱といっ
た時代だったから

今地 家を五〇〇円で買える時代
でしたからね、一、五〇〇円の
家を買って入りましたが、立派
な家でしたよ、水道もちゃんと
した家でした。

杉森 米一俵が5円50銭から6円
なんだもの、今の話しからみる
と馬鹿みたいな話だ。

司会 経済的には、漁業で言えば
沢山魚が獲れる。樺太の場合
恵須取を中心に炭坑、木材、鉄
鉱も豊富だったから、経済的に
は結構、楽だった。

北海道よりもずーっと楽だった
と思う。

加川 物は、豊富だった。

杉森 樺太は、酒だとかタバコは
税金がかからないから安いのだ。

加川 タバコはそうではないが、
酒だけはとられない。

司会 直接、小樽だとか新潟、富

山あたりから北海道を經由せず
に行くから……。

加川 それは、海上輸送になるも
のだから直接行ってしまふ。

司会 汽船などで、どっと一年分
ぐらい持つて行くものだから、
生活のレベルは、ずーっと高か
つた。へんな話だけれど、サロ
マに来て随分と田舎だと思つた。
向こうでは、一五〇戸か二〇〇
戸ぐらいの集落でも、警察あり
郵便局あり、劇場あり、何ん
も有る訳だから、それが、ここ
に来たら何も無い。随分と不便

な所へ来たものだと思つた。
加川 浜佐呂間に来て、そう思つ
たのだから、床丹なら、なおさ
らだったでしょうね。

杉森 実盛さんは、役場に居て、
引揚者にナベだか何んだか、く
れる役だったのではなかったか
い。

司会 では、実盛さんに話を聞き
ます。

実盛 今、思い出しますと丁度、

終戦前から役場におりまして、

終戦間ぎわになって統制主任を
やり、統制が終わると、皆さんの
引揚げの係になり、今でいう
民生の方をやっていたのです。

ですから、ワツカの問題も私達
が横から見ていて、あれは町村

がめんどうをみないのでなく
て対応の方法が判らなかつたの
が本当なのです。

おとなしい静かな町に一べんに
引揚げて来られて、そして何も
ない、皆さんは喰うためにやつ
ている。行政は、それに対応し
て行く方法が間に合わなかつた。
いや、海賊みたいな事も言つて
いました。

しかし、今、考えると致しかた
なかつたのでしょうか。

引揚者住宅についても建てる場
所もないし、資材もない、今、
思い出すのですが、沖さんの住
宅の所も、木船さんの倉庫の所
の住宅も全部、無許可です。

支庁から住宅の割当を貰つた戸
数だけ無理やり海岸線の空き地
へ建てた。そういう事は今は出
来ません。

浜佐呂間は、密居宅地割の処へ
建てた。あの当時は、それでも
しなければ間に合うように家は
建てられなかつたと思います。

だから、来られた方の気持は、
よく判りますが、あの時代に対
応していた町村は、どこから手
をつけて良いか判らないと言
うのが現実だつたと思います。

引揚げて来た人達は、樺太の人
も、千島の方も命がけでしたか

ら、大阪から来た人達も、唐ぐわ
一丁と、鎌二鎌二丁ぐらいもた
せて、北海道に行つて開拓せよ
といつてよこした訳ですから、
出たらめなんですよ。あの当時
の話しは、物は無いし、喰べる
物もないし、随分としんどかつ
たと思います。

司会 そう言われると今の引揚者
の住宅の話なんですが、サロ
マ町の中で、その時、建てた住
宅の残っている所は、沖さんの
倉庫は、そのままですね。

それ一軒だけですわね。
もらわなかつた人ともらつた人
が居て、うちはもらわなかつた



引揚者住宅だった沖さんの倉庫

訳だけれど、富武士、トカロチ
浜佐呂間の三ヶ所だった。

沖

今、残っている倉庫は、
あとから建増しています。六畳二
間の狭い木造で、借家賃をはら
うことになっていたので、
払わなかった人も居た。うちは
きちっと払い込んでいたので何
年か後にいくらかで買いつた
のです。当時は、今の小林さん
の住宅の所に、どこだかの大学
生だが協同出資で経営してい
た缶づめ工場があった。

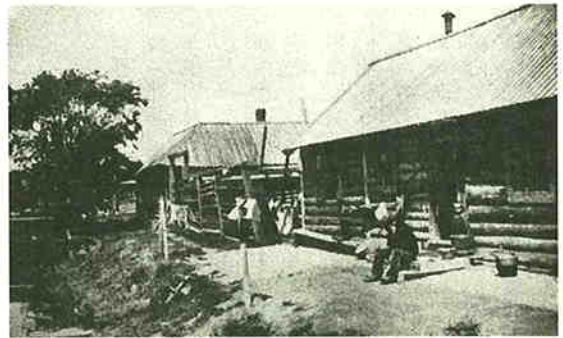
引揚げて来た時、何戸か漁師が
いて、あのあたりもけっこう、
にぎやかでした。

もう一軒、富武士の木船さんの
倉庫にしている所も引揚者住宅
だった所です。二戸あることに
なる。

加川 なじみの無い人達が入って
くる訳で、うちらは生きる為に
必死でしたから、受け入れる方
も大変だったと思う。

一 休 憩 一

司会 たしかな話ではないのです
が、ぼくが生れてまもなくだと
思うのですが、当時のお金で十
万円ぐらい爺さんは持っていた
見たいです。預金で…。



露 人 部 落

それ以外に富山に山だとか水田
だとかあり、不動産を買求める
た訳ですが、俗に言う一代でも
つてある程度の資産を作つて。

最後は帰る事になりましたら、
現金は富山の北陸銀行に預けて
あり、そのままでしたが、山も
水田もありましたし、ただ樺太
からは一切、持つてこれなかつ
た。話によると、かなり大きな
仏壇を、僕も記憶しているので
すが、それだけは、どうしても
持つて帰りたいという事で爺さ
んが一日がかりで全部バラして
ほぐして、それをコオリひとつ
に何とか納めて持つて帰ると

いうことになったのですが、デ
マが飛んで持つて帰れないだろ
うと言う事で、爺さんが一日一
杯ストロブの前に座つて、それ
を燃したといいました。

帰る時、爺さんと僕の弟と父母
と四人で、リュックサック三つ
か四つか、コオリが三つか四つ
かという感じで、まったくすべ
ての物を全部なくした。

沖 引揚げてきたけれどリュッ
クひとつしかなかった。

加川 引揚者は、リュックに荷物
ひとつが指定され、持つて来れ
るものだった。

司会 そうとうの財産は、みんな
置いて来た筈ですね。
以外と裕福だったのですから、
樺太では。

加川 密航して来た人達は、財産
のほとんどを…家とか流しと
かは置いて来たけれど、持つて
来た。引揚者のものは、手荷物
二つぐらいだった。

司会 でも預金もお金も貨幣の切
替があつて十万円が一万円ぐら
いになって、何んにもならなく
なつたりして使わずじまいだつ
たとか、結局、出発は誰れも裸
一貫だった訳ですね。
うちの爺さんも、小学校もろく
に出ないで、七歳で父に死なれ

て、八歳で船のめしたきをした。
御飯の仕度の時はおつゆの具に
何を入れたら良いか聞いたたら、
冗談にコッパでも入れておくと
船頭さんに言われ、本当にコッ
パを入れたという話しがあつた
けれど、それぐらいから働いて
いて、一代で樺太に行つて良か
つたのだと思うのですけれど、
笑ひ話ですよ。

加川 この中で密航して来た人と
いえば、佐藤さんですか。

佐藤(吉) はい、密航です。
司会 うちも密航しようと思つた
のですが、船は、あつた訳です
からね、それで、米だとか資材
など、船にはある程度、積み込
んだのですが、隣り近所の人が
密告して、毎晩、ソ連の兵隊が
家の回りに立つてはなれない。

それであきらめてしまった。
そうでなければ20年のうちにう
まく行けば、密航出来たのだと
思う。

加川 杉森さんは密航ですか。
杉森 密航というのかナ…

俺達は終戦後だったのだけど、
ソ連が来たら砂までスタリー
ンのものだという事で爺様にした
が、米は配給になつていたので、
それは積んだ。雑貨店をや
つていたけれど雑貨は全部おい

て来た。

司会 樺太の人も国後の人もそれ相当の財産は皆んな持っていた。当時は景気が良かったのだと思う。

杉森 それと、座ブトンなどはワタをだして皮だけ20枚ぐらい持って来た。フトンは家族、七人分だけでもって来た。米は一番重いのので下に積んで、ストープもナベも積んで、根室に来たら、役場に飛び込んで引揚者住宅に入れてもらった。

加川 同じ樺太からの引揚者でも密航して来た人と、リュクサククひとつの者とは、雲泥の差があります。

杉森 網類を持って来た。

マス網と引網30間か40間あったな、それも持って来ました。それで急激に良くなったというものでもない、皆んなと同じだ(笑い)

爺様はサロマに行けば麦があるから喰えるからサロマに行くということだった。

米があるということは心づよいものだよ。

加川 俺達はリュクサクサクひとつで、親入れて九人、どこを見ても知らない人の中で、明日の米、どうやって喰うか、えらい

心配をしたものだ。(笑い)

杉森 来る時に大工道具も一切つんだ。何処へ行っても小屋が建てるようにとノコから何から一切、つんできた。

俺は、そんなものどこにでもあるからと言ったが、人の居ない所に行ったらどうするのだと言つて爺さんが持つて来た。

加川 俺は親にあまり感謝したことはないのだけれど、今になって感謝している事が二つある。ひとつは、よくも殺さないで生かしてくれた事。なんでも良いからナツパでも喰わして生してくれた。

もうひとつは、よくもサロマ湖に引張つて来てくれたという事なんです。この事は、すごく親に感謝している(笑い)

司会 北海道に来る時に、おやじが稚内など、遠回りしたのだけれど、ここか、うとろ、どちらかへ行こうと思ったそうだ。

だけど、その当時はうとろ、羅臼は、交通の便も悪く、喰べ物も無かった。その点、ここには何んでも喰べる物がある。

米も麦もある。

羅臼では、デンプンのしぼりかすにうじがわいたやつを駄目な所だけ投げ捨て、それを焼いて

喰べていたそうです。

今地 私達も喰べましたよ、恥かしいけれど事実の話です。

司会 これでは、子供達は養えないという事でここに来たのだそうですね。

加川 デンプンカス、なんぼ喰べた事か。あまり味は良くなかった。

一同 よくない、よくない(笑い)
司会 樺太の西海岸の方は海がシケルと石炭が揚った。恵須取の炭坑で、船積みする時にこぼれたのがシケルと打ち上げられ車に一台ぐらいは拾えた。それを焚いていた。

杉森 皆んなの所は、学校に行くのに道路がついていたかい。

俺の所は砂原裸足で歩いて6年間かよった。

司会 樺太はもちろん道路もあつたし、グラントもけっこう大きかったし郵便局から警察、消防も全部あつた。病院もあつた。洋服のし立屋、旅館もあつた。だから、ここに来た時は随分田舎だと思つた。

加川 バスもあつたし汽車もあつた。俺の所は女郎部屋も三軒ほどあつた。

司会 ぼくの場合は、戸数、一五〇戸か二〇〇戸だったけれど、そういう施設は全部あつた。

杉森 樺太より国後はずーと選んでいたんだ。だいたい電話がついたのは終戦の前の年だった。それまでは電報だけで何も無かつた。

加川 火力発電所もあつて電気もついていたよ。

三津谷(幸) 珍内からバスが出ていたが、冬は馬ソリだった。

司会 久春内までしか汽車はなかったの、その先は歩くしかない、または、その他の交通を利用していたんです。

三津谷(慶) 密航で来たのだけれど、大きな船に米だとか、家財

